

2003年4月1日

木太地区コミュニティプラン

1. 地域の概略

木太地区は、高松市の北部のやや東よりに位置する。東は春日川によって、南・西は耕地や住宅地によって、他の地区と接しており、南北に長い地形である。

昭和15年に高松市に合併以来、ベッドタウンとしての発展はすさまじく、現在は人口30,000人、世帯は12,000世帯を超える大きな地区になっております。

小学校も地区内に4校もあるが、木太地区の理念「木太町はひとつ」を忘れることなく、地域の発展に努力しております。

2. 将来の地区のイメージ

(1) 明日へのまちづくり

①幹線道路、それに繋がる主要道路の整備

- ・関係機関への申し入れならびに陳情

②災害に強いまちづくり

- ・自主防災組織の育成と定期的な防災訓練の実施
- ・護岸のかさ上げ等を国・県・市が一緒になっておこない、災害に強いまちになるよう関係機関に申し入れる。

③情報発信

- ・地区内の回覧板の余白を利用したのミニ通信を継続して発行する。
- ・パソコンを利用してホームページを作成し、発信する。

④公園の設置

- ・住民アンケートにより、公園の必要性があり、公園設置の方法等について、出前講座を開催、現地調査等をおこない、関係機関との協議のもと、地域住民の協力のもと、新設について努力していく。

⑤仮称「ふれあいセンター」等の設置

- ・木太公民館は、建築後30年近い年月を経ており、近い将来仮称「ふれあいセンター」の設置が是非必要である。

また、地域防災の拠点でもある「消防分団屯所」についても同じことが言え、

「ふれあいセンター」「消防分団屯所」との複合施設を作るべきである。

⑥木太町のキャッチフレーズの設定

- ・木太町の進むべき目標であり指針である「キャッチフレーズ」を設定し、住民自らがその目標を目指す。

(2) 環境にやさしいまちづくり

①ごみの分別の徹底

- ・ごみカレンダーを作成し、各戸に配布する

②犬の飼い方立て札の設置

- ・環境保全課よりの「飼い方」看板を必要に応じて配布する。そして、飼い主のマナーアップの啓発を図る。

③主要道路の清掃

- ・地区内の主要道路を住民参加のもと、清掃をする。

④地区内一斉清掃

- ・地区内に根付いている一斉清掃を環境保護の意識向上をも踏まえ、より一層盛り上げる。

⑤リサイクルの推進

- ・将来設置されるであろう「ふれあいセンター」のなかに、不用品伝言板等を設け、不要になった道具等のリサイクルを推進する。

(3) 安心・安全のまちづくり

①安心・安全まちづくり組織の立ち上げ

- ・NPOの協力のもと、各団体の協力により組織化を図り、安心・安全なまちづくりに努める。

②あいさつ運動の実施

- ・地区健全育成協議会、各小学校PTA・育成会協力により、登校時のあいさつ運動を実施するとともに、下校時においても定期的な立ち番・見回り等をおこなう。

③夜間パトロールの実施

- ・地域安全推進委員会を中心に、夜間における違法駐車防止等安全パトロールを実施する。

④防災マップの作成ならびに防災訓練の実施

- ・自主防災会・自治会等を中心に、防災倉庫・緊急避難先等を記した、防災マップを作成する。また、定期的に防災訓練をおこない、防災に対する意識付けをおこなう。

高齢者の把握を十分に行い、災害時にすぐ対応できるようにする

⑤交通安全対策

- ・定期的に交通安全団体を中心に、キャンペーンをおこなうとともに、危険箇所等の安全施設の設置を要望していく。

⑥健康づくり

- ・回覧板等にて、地域住民の健康づくりについて周知するとともに、各種検診等の受診率の向上をはかっていく。

(4) 連携のとれた楽しいまちづくり

①ふれあい事業の実施

- ・あまから水祭りをはじめ、各種団体の主管により、ふれあいコンサート・地区音楽祭・町民運動会・町民ハイキング等既存の事業の改善とともに、新しく住民誰でもがより多く、より参加しやすい行事を計画実施する。
- ・かつて各地域（大地区）でおこなわれていた行事（盆踊り・持ちつき大会等）を復活させ、地域住民同志のコミュニティの場を提供できるようにする。

②既存資料の活用

- ・史跡探訪マップ・ハイキングマップ・公園マップ等既存の資料を十分に活用できるよう改定・周知・増し刷り等をおこなう。

③少子・高齢化への対応

- ・将来設置されるであろう「ふれあいセンター」のなかに、いつ誰でもが来て相談したり、楽しめる「ちびっ子ルーム」「おじいちゃんルーム」を設けて、世代間の交流の場をつくる。

④ボランティアの組織化

- ・住民の中で、何か得意な技術を登録してもらい、必要に応じてボランティアとして活動してもらおう。

3. まとめ

以上が「夢えがき」「何ができるか」等ワークショップをはじめ、地区内の各種団体の事業のなかで、「今後、こんなことがやりたいな」「こんな人があったらな」というものを「将来の地区のイメージ」としてまとめてみました。これらのことがすなわち「コミュニティプラン」に繋がっており、木太地区のコミュニティプランであり、自助・公助・共助の立場に立って、たちまちできることから実施してまいります。